

安全データシート (SDS)

1. 製品および会社情報

製品名 : NEWベランコート (No.1~5 : 共通)
会社名 : 菊水化学工業株式会社
住所 : 滋賀県湖南市石部口3-1-1
担当部門 : 技術部 無機土木技術グループ
電話番号 : 0748-77-3155
FAX番号 : 0748-77-4501

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】

健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 : 区分1
発がん性 : 区分2
特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 区分2

【絵表示】



【注意喚起語】

危険

【危険有害性情報】

重篤な眼の損傷
発がんのおそれの疑い
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ

【注意書き】

全ての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
容器を密閉して涼しい所／換気の良い場所で施錠して保管すること。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
保護手袋／保護眼鏡／保護マスクを着用すること。
粉塵／フューム／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
汚染された衣類を再使用する場合は洗濯すること。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
環境への放出を避けること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物

成分及び含有量 (危険有害物質を対象)

成分名	含有量(%)	CAS No.	化管(PRTR) 法
エチレングリコール	< 1	107-21-1	-
酸化チタン(IV)	1 - 10	13463-67-7	-
カーボンブラック	0 - 10	1333-86-4	-
酸化第二鉄	0 - 10	1309-37-1	-
合成非結晶質シリカ	< 1	112926-00-8	-
酸化水酸化鉄(III)	0 - 10	20344-49-4	-

注記：これらの値は、製品規格値ではありません。

危険有害成分

安衛法「通知すべき有害物」該当成分

エチレングリコール、酸化チタン (IV)、カーボンブラック酸化第二鉄、
合成非結晶質シリカ、酸化水酸化鉄(III)

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、安静・保温に努め、医師の診断を受ける。
- 皮膚に付いた場合 : 付着物を拭き取り、水と石鹼でよく洗う。外観に変化が見られたり、痛みがある場合は医師の診断を受ける。
- 目に入った場合 : 直ちに大量の清浄な水で15分以上洗う。洗眼の際、まぶたをよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。その後、医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 水でよく口を洗わせ、直ちに医師の診断を受ける。意識のない被災者には何も与えてはならないし、無理に吐かせてもならない。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 水[○]、二酸化炭素[○]、泡[○]、粉末[○]、乾燥砂[○]
- 消火方法 : この物自体に可燃性なし。
棒状の水を消火に用いてはならない。
適切な保護具 (耐熱性着衣) を着用する。
可燃性の物を周囲から取り除く。
指定の消火剤を使用する。
高温にさらされる密閉容器は水を掛けて冷却する。
消火活動は風上から行う。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 作業の際には保護具を着用して、蒸気の吸入や皮膚への接触を防止する。
- 環境に対する注意事項 : 河川・湖沼等に流入は絶対に避ける。
- 除去方法 : 少量の場合は、吸着剤(おがくず、土、砂、ウエス等)に吸収させて取り除いた後、残りをウエス等でよく拭き取る。
多量の場合は、土砂等の不燃物で囲って流出を防止し、漏出したものをすくいとり、空容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：

- 技術的対策：局所排気装置等を設け、通気の良い場所で作業する。
漏れ、あふれ、飛散等がないように注意して取扱う。
保護眼鏡、防毒マスク、保護手袋等の保護具を着用し、暴露を防止する。
取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。
- 注意事項：漏れ、あふれ、飛散などによる作業場の汚れを防止する。
取扱い場所には、関係者以外の立入を禁止する。

保管：

- 適切な保管条件：直射日光を避け、換気のよい冷暗所に保管する。
屋内貯蔵を原則とする。
施錠をして保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

- 設備対策：局所排気装置、洗眼、手洗い、身体洗浄用の設備。
- 管理濃度：設定されていない。
- 許容濃度：以下の値を参照（ACGIH-2008年度版）
（酸化チタン(IV)）
日本産衛学会(2013) 0.3mg/m³
（エチレングリコール）
ACGIH(1992) STEL: (上限値 100mg/m³(H)) (上気道および眼刺激)
（酸化第二鉄）
ACGIH(2005) TWA: 5mg/m³(R) (じん肺)
（カーボンブラック）
ACGIH(2010) TWA: 3mg/m³(I)
（酸化チタン(IV)）
ACGIH(1992) TWA: 10mg/m³ (下気道刺激)
- 保護具：保護眼鏡、保護手袋、保護長靴、保護服、有機ガス用防毒マスク、保護前掛け。
保護具は定期的に点検する。
作業中は飲食、喫煙はしない。飲食、喫煙前に石鹼で手を洗う。

9. 物理的及び化学的性質

- 外観： グレー色水性液体（粘稠）
臭い： かすかなアクリル臭

10. 安定性及び反応性

- 安定性： 通常の条件下では安定
- 危険有害反応可能性： 知見なし
- 避けるべき条件： 低温（5℃以下）及び高温（40℃以上）
- 混触危険物質： 知見なし
- 危険有害な分解性生物： 知見なし

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性（経口）

【日本公表根拠データ】

（エチレングリコール）

rat LD50=4000 mg/kg (CICAD 45, 2002)

局所効果

皮膚腐食性・刺激性

皮膚腐食性/刺激性成分データ

【日本公表根拠データ】

（エチレングリコール）

ラビット 555 mg open ; MILD

（酸化チタン(IV)）

ヒト 0.3mg/3D-I ; MILD

眼に対する重篤な損傷・刺激性

眼損傷性/刺激性成分データ

【日本公表根拠データ】

（エチレングリコール）

ラビット 500 mg/24H ; MILD ラビット 100 mg/1H ; MILD

ラビット 1.44 g/6H ; MODERATE

（酸化第二鉄）

corrosive (IUCLID, 2000)

感作性データなし

生殖細胞変異原性データなし

催奇形性データなし

発がん性

【日本公表根拠データ】

（カーボンブラック）

IARC (65, 1996) Gr.2B et al

（酸化チタン(IV)）

IARC (Monograph Vol.93, in preparation) 粒径 10-50nm Gr.2B

（酸化第二鉄）

IARC-Gr.3：ヒトに対する発がん性については分類できない

（カーボンブラック）

IARC-Gr.2B：ヒトに対して発がん性があるかもしれない

（酸化チタン(IV)）

IARC-Gr.2B：ヒトに対して発がん性があるかもしれない

（エチレングリコール）

ACGIH-A4(1992)：ヒト発がん性因子として分類できない

（カーボンブラック）

ACGIH-A3(2010)：確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明

（酸化第二鉄）

ACGIH-A4(2005)：ヒト発がん性因子として分類できない

（酸化チタン(IV)）

ACGIH-A4(1992)：ヒト発がん性因子として分類できない

（カーボンブラック）

日本産衛学会-2B：人におそらく発がん性があると判断できる証拠が比較的十分でない物質

生殖毒性

短期ばく露による即時影響、長期ばく露による遅延/慢性影響

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

【区分 3(気道刺激性)】

【日本公表根拠データ】

(酸化第二鉄) 気道刺激性 (ICSC(J) (2004), IUCLID (2000))

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

【区分 1】

【日本公表根拠データ】

(カーボンブラック) 肺 (IARC vol. 65, 1996)

(酸化第二鉄) 呼吸器系 (ACGIH, 2001)

吸引性呼吸器有害性データなし

その他情報

この調合製品自体のデータは得られていない。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生毒性

水生毒性（急性）成分データ

【日本公表根拠データ】

(エチレングリコール)

魚類 (ヒメダカ) LC50 > 100mg/L/96hr (環境省, 2001)

(カーボンブラック)

甲殻類 (オオミジンコ) EC50 > 5600mg/L/24hr (IUCLID, 2000)

水溶解度

(エチレングリコール)

100 g/100 ml (PHYSPROP Database, 2005)

(酸化第二鉄)

溶けない (ICSC, 2004)

(カーボンブラック)

溶けない (ICSC, 1995)

(酸化チタン(IV))

溶けない (HSDB, 2004)

(フタロシアニンブルー)

溶けない (ICSC, 2006)

残留性・分解性データなし

生体蓄積性

(エチレングリコール)

log Pow=-1.93 (ICSC, 1999)

(フタロシアニンブルー)

log Pow=6.6 (calc.) (ICSC, 2006)

その他情報

この調合製品自体のデータは得られていない。

13. 廃棄上の注意

- ・ 廃塗料、容器の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理する。
- ・ 容器、機械装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さない。
- ・ 排水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、委託する。
- ・ 廃塗料などを焼却処理をする場合には、珪藻土に吸着させて、法規に従った焼却炉で少量ずつ焼却する。
- ・ 塗料製品、廃塗料及び焼却灰等は、特別管理産業廃棄物に該当することがあるので、廃棄はこの法規に準じて行う。
- ・ 廃棄物などを焼却処理する場合には、有害ガスを発生するため、適切な除去装置のある焼却炉を使用する。
- ・ 産業廃棄物として、許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理をする。

14. 輸送上の注意

共 通

- ・ 取り扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。
- ・ 容器漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行うこと。

国連番号、国連分類

国連番号に該当しない

特別の安全対策

直射日光、雨にばく露されないように運搬する。

バルク輸送における MARPOL 条約附属書 II 改訂有害液体物質及び IBC コード

有害液体物質 (Y類)

エチレングリコール

有害液体物質(Z類)

酸化チタン(IV)

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

労働安全衛生法

粉じん障害防止規則 (令 19 号)

カーボンブラック

有害物ばく露作業報告対象物質 (平成 25 年対象・26 年報告)

カーボンブラック

有害物ばく露作業報告対象物質 (平成 26 年対象・27 年報告)

エチレングリコール

名称通知危険/有害物 (第 57 条の 2、令第 18 条の 2 別表 9)

エチレングリコール、酸化チタン(IV)、酸化第二鉄、合成非結晶質シリカ、

酸化水酸化鉄(III)、カーボンブラック

消防法に該当しない。

化審法

優先評価化学物質

エチレングリコール

じん肺法

酸化チタン(IV); カーボンブラック; 合成非結晶質シリカ

適用法規情報

この物質に関する貴国又は地方の規制に関する調査は貴社の責任で処理願います。

16. その他の情報

参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (5th ed., 2013), UN Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 18th edit., 2013 UN Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (table3-1 ECNO6182012) 2012 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK(US DOT) 2014 TLVs and BEIs. (ACGIH)
<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>

JIS Z 7253 (2012 年)

Supplier's data/information

責任の限定について

この情報はこの特定の材料に関するものであり、この材料が他の材料と組み合わせられたり、処理されたときは無効です。この情報を自分自身の独特な取扱いに適合させ完全で満足できるものとする責任はユーザーにあります。

ここに示す情報は誠意をもって作成していますが、明記があるにしても保証はありません。これ以上の情報については当社にご相談ください。

この情報は、私どもの知識の及ぶ限りにおいて正確ですが、当社は内容の正確性又は完全性について、何も責任を取ることはできません。全ての材料を適当に使用する最終的決定の責任はユーザーのみのものです。全ての材料には、未知の危険性があり、取扱いに注意が必要です。ここには特定の危険性について記載してありますが、これ以外の危険性が存在しないことは保証できません。

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載されたデータは最新の知識及び経験に基づいたものです。安全性データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。

ここに記載した GHS 分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データです。